

歴史と文化 (History and Culture)

沖縄社会文化論 (Okinawa Society and Culture)

高橋 晋一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】 異文化/自文化を客観的に把握する視点の獲得は、持続可能な社会・共生社会を考える上で重要なものである。本講義では、とくに沖縄の文化を事例として、こうした視点の獲得を目指したい。これまで沖縄の文化・社会は、日本との関わりにおいて言及されることが多かった。しかし沖縄は古くから日本のみならず、より広大な東アジア・東南アジア世界と結び付きを持ち、それらの地域との密接な交流のなかで、独自の社会・文化・民俗を作り上げていったのである。本講義では、従来の「日本文化と沖縄文化」という視点にとどまらず、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)というより広い視点から、現代の沖縄の文化・社会の姿を見つめ直してみたいと考えている。また、沖縄という一地域の事例を通して「文化人類学的なものの見方」に対する理解を深めることも、本授業の大きな目的の一つである。

【授業の概要】 毎回、祭り、音楽、食文化など具体的なトピックを取り上げつつ、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)という視点から、沖縄の文化と社会の基層構造(沖縄文化・沖縄社会の本質)を解明していく。

【キーワード】 沖縄、文化、アジア、文化人類学、民俗学

【関連科目】 『歴史と文化/異文化/自文化研究へのいざない』(0.5)

【到達目標】 沖縄の文化・社会の持つ特質を、文化人類学的な概念・理論をふまえながら理解することができる。

【授業の計画】

1. はじめに-沖縄文化・社会をとらえる視点
2. 「海上の道」は時空を超えて-沖縄の自然・歴史と文化
3. 祖霊が見守るシマ-沖縄の村落構造と世界観
4. 墓を生きる人々-沖縄の家族・親族と祖先崇拜
5. ニライカナイ(海上他界)と仮面来訪神-沖縄の祭りと芸能
6. 神になった女性-沖縄の女性祭司の世界
7. 琉球音階は黒潮に乗って-伝統音楽から沖縄ポップスまで
8. ウチナンチュ(沖縄人)の見た沖縄-沖縄映画の世界
9. 創り出される「ちゃんぷるー文化」-沖縄の地域イメージと観光文化の展開
10. 食のクロスロード-沖縄の食文化にみる外来文化の影響
11. 環東シナ海の文化交流-沖縄における中国的習俗

12. 「沖縄」を踊る-在阪沖縄人社会の「エイサー」をめぐる

13. 中国文化を生きる-石垣島の華僑社会の事例より

14. 東アジア世界へのひろがり-沖縄の風水

15. レポート提出

16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書、1986年
- ◇ 赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社、2003年
- ◇ 多田治『沖縄イメージの誕生』東洋経済新報社、2004年
- ◇ 渡邊欣雄『世界のなかの沖縄文化』沖縄タイムス社、1993年
- ◇ 『アジア遊学』53号(特集=沖縄文化の創造)勉誠出版、2003年
- ◇ 嘉手川学編『沖縄チャンプルー事典』山と溪谷社、2001年

【成績評価の方法】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況(25%)、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数(40%)、期末レポートの点数(35%)を総合して行う。ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221046>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (後期)月曜12-13時)